

クリスマス後の出来事です。

今回のアンナの話は、クリスマス後、6週間後のおはなしです。

アンナは女性であり、84歳の老人でした。そんなアンナは今日までずっと、

- ① 神様に仕えて、歩み続けてきました。
- ② 神の宮に仕えて、歩み続けてきました。
- ③ 人々に仕えて、歩み続けてきました。

さて、老預言者、女預言者であるアンナさんについて、聖書はわずか3節しか書いていません。でも、この3節から幾つかの事がわかります。

36、37 節、「また、アシエル族のペヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。この人は非常に年をとっていた。処女の時代の後、7年間夫と共に暮らしたが、やもめとなり、84歳になっていた。彼女は宮を離れず、断食と祈りをもって、夜も昼も神に仕えていた。」

- 1、アンナは84歳にもなっていた、老いた預言者、しかも女性の預言者でした。
- 2、彼女の父はペヌエルと言って、イスラエルのアシエル族の人でした。アシエルは昔のイスラエルの12部族の1つで、この人々はおもにガリラヤ地方に住んでいました。ということは彼女はガリラヤ人で、ガリラヤという田舎の出身者でした。
- 3、彼女は人間的な目で見れば、気の毒な身の上で、若い時、ご主人を亡くされていました。しかし、その後は、再婚もしないで、その生涯すべてを神に献げ「宮を離れず」と書かれています。神殿（神の宮）で神様に仕えていました。彼女は毎日、夜も昼も、祈りと断食をもって、生ける神さまに仕えて、その生涯を献げて今日まで過ごして来たのでした。人間的には不安定で、寂しい生活の様に見えるかも知れませんが、そうではありません。彼女は日々情熱を持って、神様に仕えておりました。

——— 長い時代、預言者があらわれなかった ———

それにしても、この時代は、何百年にも渡って預言者が現れませんでした。ですからその様な中でイスラエルの国は精神的にも、政治的にも乱れ切っていました。そんなユダヤの国に今、再び預言者が現れたのです。ということは不思議ではありますが素晴らしい事でした。これもまた神の愛の摂理というものなのかもしれません。

----- そんな彼女の3つの働き -----

でもたとえ預言者アンナが老齢であったとしても、女性であったとしても、そんな彼女を軽く見てはいけません。彼女は実に素晴らしい働きをしました。

第1に、今出会ったばかりの赤ちゃんイエス様を救い主と認めました。鋭い霊眼を持っていました。

第2に、まだ幼いイエス様をイスラエルの国の人々が、ずっと今まで待ち望んできたメシヤ救い主だとわかって、神に感謝しました。この時、どんなにかアンナは嬉しかったことでしょう。

第3、そして更にアンナは、この幼子こそ真の救い主であり、民が待ち望んでいた、救い主であることをエルサレムの人々に伝えたのでした。イエス様に出会ったら、すぐ伝道ですね。

----- アンナの言葉を拒否したユダヤ人たち -----

しかし残念なことは、この当時、祭司も民の指導者たちも、その心のかたくなさのために、アンナのことばを素直に聞く事をしませんでした。アンナの預言に耳を傾けようとしなかったのです。残念ですね。彼らは、そのことによって、ついに神の救いの恵みに預かることが出来なくなってしまいました。それにしても、もしこのアンナの言葉を良く聞いて、素直に受け入れていたならば、ユダヤの国の、その後の歴史は、もっと幸いなものになっていたと思います。

それにしても、聖書に登場する預言者といわれている人は、彼女アンナが最後でした。ところが、まさに、その最後の恵みの預言を彼ら（祭司や宗教指導者達）は拒否し、退けてしまったと言う事になります。最も、この女預言者以後はもう預言の必要はなくなりました。なぜなら、昔からの預言の通り、救い主はこの世に、もうお生まれになったのですから。

さてそんなアンナは一体どこで、イエス様とお会いになられたのでしょうか？ それは、宮（神殿）の中でした。あのシメオンと同じですね。

聖書にも書かれているように、彼女も又、シメオンと同じ様に昼も夜も神殿から離れないでいました。こうして彼女も又、イエス様と神殿にてお会いすることが出来たのです。

さて、イエス様の両親は、イエス様が誕生してからユダヤの律法に従って、6週間後に、宮に行きました。

22節「そして、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子をエルサレムに連れて行った。」のでした。それは、ユダヤの律法に従って、エルサレムの神殿で、幼子を神に献げるためでした。（イエス様は、他の多くの赤ちゃんと同じ様に8日目に割礼を受け、きよめの期間が終わった後に、神殿で罪の爲のいけにえを献げなければなりません。両親は幼子イエス様を、高名な老祭司やラビに抱いてもらって祝福を受けるために、今神殿に登ったのでした。）

38節「ちょうどそのとき彼女も近寄って来て、神に感謝をささげ、エルサレムの贖いを待ち望んでいたすべての人に、この幼子のことを語った。」 その、神殿でアンナとイエス様は出会ったのです。そして、少し前後しますが、ちょうどその少し前、あのシメオンという老人も又、聖霊に導かれてイエス様と出会うために、神殿にやって来ておりました。シメオンはイエス様と感動の出会いをして、神をほめたたえました。ちょうどその時に老女預言者アンナも又、近寄って来てイエス様とお会いし、「この幼子は、主キリストである」とあかししました。そして、神に感謝を献げたのでした。

最後に、そんなアンナから次の3つの事を学びます。

・第1に、**老人も、神様の前に、素晴らしい奉仕が出来る**という事です。今84歳のアンナは、その信仰、特に祈りの生活は、実に素晴らしいものでした。多くのご年輩の方々は、自らの年齢の事を考えると、心弱くなってしまい、この老いの身で何が出来るだろうかなどとすべてに消極的になってしまうかもしれません。でもあなたが出来る素晴らしい奉仕があるのです。

その1つは、**祈り**です。特にご年輩の方々の熱い祈りは、大きく神様に聞かれます。人々の心を打ちます。そして、その祈っている姿は、若い人々に感動と勇気を与えます。

もう2つ目は、**語る**ことです。アンナも会う人、会う人に救い主イエス様の事を語り伝えました。この様にご年輩の方々の用いられる奉仕は、**祈ること、そして語る**ことですね。

さてこのメッセージに取り組んでいる時に、ちょうど川島照子先生、バーニーマッシュ先生からお電話をいただきました。マーシュ先生は90歳だそうですが、最後にこうひとこと、言われました。「先生今度お会いする時も、私たち現役でお会いしましょう。」大変励まされました。

・第2は、アンナも、シメオンも、神の良き器になるために、年を重ねてきましたが今も、**なお主の導きを食欲に求めている**ということです。アンナとシメオンが、赤ちゃんイエス様とお会いした時、イエス様が救い主でキリストあるとわかったのは、彼らが**いつも祈り、み声に耳を傾け続けていた**からでした。ここに彼らの霊的な深さ（若者にはない深さを見ます）老人は霊的深さで勝負するのです。

・第3は、老人は若者と共に、教会で共に生き、奉仕活動ができるということです。39節「宮を離れず・・・」ご年配の方々の忠実さは教会にとって宝です。教会では老若男女の差別はありません。アンナのような老人の意見や、奉仕も教会では必要です。更に女性たちの意見も同様に大切です。私たち教会では、互いの違いを越えて、祈りあい、奉仕を捧げて行きたいと願っています。その様な教会でありたいですね。

まさに、アンナは

- 1、神と共に生きた人。
- 2、教会と共に生きた人。
- 3、人々と共に生きた人でした。

そして最後に、アンナもシメオンも、人生の最後の時に本物の主に。お会いしたのでした。そして、このお方を語り続けました。

あの、イエス様が最初に行われた奇跡は、結婚式の時でした。そこでは主の奇跡によって最後の最後に良き葡萄酒が出されました。列席者を感動させました。私たちの人生も最後の最後に成る程、本物があふれ出て来る。そして、主の栄光、素晴らしさを現わすことが出来る。共にその様な人生を送りたいですね。祈りましょう。